

令和5年度原子力防災訓練等の検証結果（概要）

原子力防災訓練（10/12、21実施）の主な検証結果（課題）は次のとおり。

検証結果（課題）	
1	<p>海路・空路避難訓練において、天候の状況等に応じた対応が必要。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訓練における航行中止に際しては、住民の不安解消のため、実災害時の避難方法を明確に説明することが望ましい。（評価者） ・海路避難が中止となった場合の代替手段を準備しておく必要がある。（要員） ・海が荒い時はどういう対応になるのかやや不明。（住民）
2	<p>放射線防護対策施設の設備稼働や運用手順確認等の訓練に、より多くの住民参加が必要。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元住民の協力のもと、屋内退避に係る手順確認が円滑に実施されていた。引き続き、訓練を通して住民理解を深め、運営体制を強化することが望ましい。（評価者） ・地域住民自らが放射線防護対策施設をスムーズに稼働できる体制が必要。（要員）
3	<p>緊急時モニタリングセンター設置前（警戒事態）における、県の対応手順を確認できる訓練が必要。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時モニタリングセンターが設置される前の、警戒事態における愛媛県モニタリング本部に対する問合せ要領等についても確認することが必要。（評価者）
4	<p>放射性物質放出前の海上モニタリングの確実な実施に向けた体制強化が必要。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し訓練を行い、測定経験者を増やしていく等、様々な状況に対応できるよう準備が必要。（要員）
5	<p>避難退域時検査など原子力災害特有の避難行動に関する住民への説明の充実が必要。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難退域時検査について、口頭だけでなく一連の流れ等に関する資料を配布するなど、住民の理解を促進するための対策を検討することが望ましい。（評価者） ・避難退域時検査について、口頭での説明はあったが、具体的にどういった検査が行われているのかわからなかった。（住民）
6	<p>県災害対策本部とオフサイトセンター間で、円滑な情報共有ができるよう改善が必要。</p> <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県災害対策本部における原子力防災ネットワークシステム（N I S S）の運用の明確化等、円滑な情報共有が可能な体制を構築することが必要。（評価者） ・県災害対策本部とオフサイトセンターの円滑な情報共有のため、実災害時に確認が必要な事項等を平時から整理し、問合せ要領や様式等を整備することが必要。（評価者）

※検証結果（課題）については、来年度の原子力防災訓練において、関係機関と連携して対応することとしている。